



1. 保護者の疑問、不安・懸念点 ※保護者懇談会資料より抜粋

資料 2

No.	保護者の疑問、不安・懸念点	市（教育委員会含む）の考え								
12	学校が再編された場合、大甕幼稚園はどうなるの？	現在市では、学校再編に伴う学校の位置変更に合わせて、大甕幼稚園を移転することは想定しておりません。 市では少子化の進展や公立幼稚園・保育園の老朽化等の理由から、令和3年2月に今後の市の幼児・教育施設の基本的な対応方針を定める「南相馬市幼稚園・保育園等のあり方に関する課題・対応方針」（以下、「課題・対応方針」という。）を策定しました。 「課題・対応方針」では、公立幼稚園・保育園施設の統廃合についての基準を定めており、この基準に基づき、各施設統廃合等の検討を進めることとしています。 原町区においては、長期的な視点で私立施設の定員確保を最優先とし、公立幼稚園（高平幼稚園、大甕幼稚園）の今後のあり方を検討することとしており、検討にあたっては「南相馬市幼稚園、保育園等あり方検討委員会」において、原町区の公立幼稚園（高平幼稚園、大甕幼稚園）の今後のあり方を検討します。 【統廃合の基準】 ・ 3歳児は10人、4・5歳児は各15人に満たない学年が発生したときは、統廃合優先施設と位置付ける。 園児数（R8年1月1日時点） <table><tr><th>高平幼稚園</th><th>大甕幼稚園</th></tr><tr><td>3歳児 9人</td><td>3歳児12人</td></tr><tr><td>4歳児15人</td><td>4歳児12人</td></tr><tr><td>5歳児13人</td><td>5歳児12人</td></tr></table>	高平幼稚園	大甕幼稚園	3歳児 9人	3歳児12人	4歳児15人	4歳児12人	5歳児13人	5歳児12人
高平幼稚園	大甕幼稚園									
3歳児 9人	3歳児12人									
4歳児15人	4歳児12人									
5歳児13人	5歳児12人									



1. 保護者の疑問、不安・懸念点

No.	保護者の疑問、不安・懸念点	市（教育委員会含む）の考え
13	現在の大甕幼稚園との連携はどうなるの？	幼小連携・接続の目的は、入学後のこどもたちが不安なく学校生活を始められるようにすることです。 保護者の方がイメージする「こども同士の交流」は、学校の雰囲気を知り、友だちや場所に慣れる大切な入口になります。一方で、入学後の困りごとはこども一人ひとり違うため、交流とあわせて先生同士が事前に準備することも重要です。園での育ちの様子や配慮点、生活リズムなどを共有し、教室での声かけや支援の方法をそろえることで、つまずきを減らしやすくします。 つまり、幼小連携・接続は「交流（見える連携）」と「先生同士の連携（見えにくい連携）」の両輪で進める取組です。交流で安心感をつくり、先生同士の連携で入学後の生活につなげる。どちらも大切にしながら、こどもが安心して新しい環境に踏み出せるよう、段階的に取り組んでいます。 各小学校では、1年生が入学後にスムーズに学校生活へ移行できるよう、「スタートカリキュラム」を作成しています。あわせて、幼稚園・保育園等の先生方と情報共有を行い、連携・接続を意識した指導や支援を行っています。 現在の大甕幼稚園、大甕小学校の連携・接続の取り組みについては、学校再編後も必要な手当てを講じ、継続していきます。